

# 話し言葉と書き言葉における 動詞受身形の使用実態

2種類のコーパスの調査から

古賀悠太郎

## ◆要旨

**本**稿では、日本語の受身文（動詞受身形）について、2種類のコーパスを使用して話し言葉と書き言葉における使用実態の異同を調査し、以下の点が明らかになった。

①話し言葉では受影型動詞受身形が、書き言葉では降格型動詞受身形が最も多く出現する、②動詞受身形は話し言葉では連用節末に、書き言葉では連体節末に多く出現する、③話し言葉でも書き言葉でも「言う」が最も受身形で出現する。そして、話し言葉では受影型でしか使用されない動詞が、書き言葉では基本的に降格型で使用される動詞が受身形で上位に出現する。

また、これらのデータが日本語学研究や日本語教育に対してどのような意義を有するのかについても考察した。

## ◆キーワード

動詞受身形、話し言葉と書き言葉、受身の類型、出現位置、結びつきやすい動詞

## ◆ABSTRACT

This study examined differences in using passive sentences (passive verb forms) in spoken and written Japanese based on a survey on two types of corpus. The results indicated that (1) affective-type passive verb forms often appear in spoken Japanese, and demotion-type passive verb forms most often appear in written Japanese, (2) passive verb forms often appear at the end of continuous clauses in spoken language, whereas they often appear at the end of attributive clauses in written Japanese, (3) "Iu (say)" most often appear in the passive form in spoken and written Japanese. The passive form is often observed in verbs only used in the affective style in spoken Japanese and verbs that are generally used in the demotion style in written Japanese. We have discussed the significance of these findings for Japanese language studies and education.

## ◆KEY WORDS

passive verb forms, spoken and written language, types of passive, appearance position, verbs tend to be connected

Using Passive Verb Forms  
in Spoken and Written Language  
Based on the Survey of Two Types of Corpus  
YUTARO KOGA

# 1 はじめに

本稿の目標は、日本語の受身文（動詞受身形）について、2種類のコーパスを使用して話し言葉と書き言葉における使用実態の異同を明らかにすることである。

受身文（動詞受身形）は話し言葉でも書き言葉でも数多く使用され、且つ話し言葉と書き言葉の差異が比較的大きい文法項目の1つであるし、また日本語学習者にとっても重要度が高い。

本稿では、まず日本語の話し言葉と書き言葉のコーパスを使用して受身文（動詞受身形）の例を収集し（第2節）、収集された実例について「受身文（動詞受身形）の類型ごとの出現頻度」など3つの観点から分析を加える（第3節）。さらに、ここまでで提示したデータが日本語学研究と日本語教育のそれぞれにとってどのような意義を有するののかについても考察する（第4節）。

なお、本稿では、「V-(ら)れる」が文末に出現する例のみならず、文末以外の位置に出現する例についても分析の対象とする。そのため、「文」（受身文、受動文、受影受動文）という用語をできるだけ避けて、その代わりに「動詞受身形」「受影型」などの用語を使用する。

## 2 用例の収集方法

第2節では、本稿で分析する用例の収集方法について説明しておく。

本稿では「日本語日常会話コーパスモニター公開版」(CEJC)と「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(BCCWJ)の2種類のコーパスを使用して動詞受身形(V-(ら)れる)の実例を収集する<sup>[注1]</sup>。

いずれも国立国語研究所が構築し、公開しているコーパスである。CEJCは約50時間分の自然会話を録音し、それを文字化したものである。総語数は約60万9000語で、今回はそのすべてを検索対象として動詞受身形(V-(ら)れる)の例を収集した。このコーパスでは、様々な場面における会話が収集できるように、性別や年齢などのバランスを考慮して選ばれた40名の協力者に3か月ほ



### 3.1 動詞受身形の種類ごとの出現頻度

まずは、話し言葉と書き言葉ではどのような種類の動詞受身形が出現しているかを観察する。なお、日本語の受身文（受動文）の種類（分類）については、益岡（1982）の「属性叙述受動文」「受影受動文」「降格受動文」<sup>[注3]</sup>という3分類を使用する。

属性叙述受動文（属性叙述型）は、主語の位置にある名詞句に関するある種の属性を叙述するものである。たとえば、次の例1では、「この雑誌」について、「10代の若者によく読まれている」、すなわち、たとえば「特に若者に人気がある」という属性が叙述されている。

(1) この雑誌は、10代の若者によく読まれている。 (益岡1982: 57)

受影受動文（受影型）は、主語の位置にある名詞句が他者の動作・行為などからある種の影響を受けることを描写するものである（例2-4）。また、主語の名詞句が非情の存在であっても、ある動作・行為などから潜在的に影響を受ける有情の存在が認められるならば受影受動文（受影型）の一種である（例5）。

(2) ジョンは友人にばかにされた。 (益岡1982: 53)

(3) ジョンは友人に妻をばかにされた。 (益岡1982: 54)

(4) その時、田中君は社長にそばに居られてとても緊張していた。 (作例)

(5) その寺は翌年信長に焼き払われた。 (益岡1982: 55)

降格受動文（降格型）は、対応する能動文の動作主を非主語の位置に降格させることに伴い、動作主ではない存在が主語の位置に置かれることになったものである。たとえば、次の例6では、動作主の「ワイルズ」が主語の位置から「～によって」句に降格されており、それに伴って非動作主の「フェルマーの最終定理」が主語の位置に置かれている。なお、主語の位置から降格になった「ワイルズ」（動作主）は、文中に明示されないことも多い。

(6) フェルマーの最終定理が(ワイルズによって)解決された。(作例)

以上を踏まえて、話し言葉と書き言葉ではそれぞれの種類の動詞受身形が出現しているかをカウントしたところ、表1のようになった。

表1 動詞受身形の種類ごとの出現数

	話し言葉	書き言葉
属性叙述型	10 (1.0%)	74 (1.6%)
受影型	<b>837 (84.2%)</b>	1629 (36.0%)
降格型	147 (14.8%)	<b>2827 (62.4%)</b>
計	994	4530

表1から分かるのは、話し言葉では受影型が、書き言葉では降格型が多数を占めるということである。

(7) そのあと髪<sup>の</sup>毛永遠に伸ばすわけに行かないよ。先生に注意されちゃう。  
(受影型; 会話ID T011\_015)

(8) また、野中氏が防衛庁の「省」移行の記述に異論を唱え、表現が弱められることになった。  
(降格型; 『朝日新聞』2001年2月28日朝刊)

そして、表1の数字は志波(2015)の調査結果ともある程度一致する。志波(2015)によると、話し言葉に近い「小説の会話文テキスト」においては「有情主語有情行為者受身構文」(受影受動文にほぼ相当)が79.5%(1099/1382)を占めており、書き言葉に近い「評論文テキスト」では「非情主語一項受身構文」(降格受動文にほぼ相当)が82.2%(508/618)を占めていたとのことである。

なお、属性叙述型については、話し言葉で1.0%、書き言葉で1.6%にすぎなかった。これについては、「属性叙述受動文は受動文の中では周辺的な位置にあるものと見たい。その理由は、実際の使用例が少ないという事実に因る」(益岡2000: 58)という先行研究の指摘もある。そこで本稿では、以下、属性叙述型については基本的に扱わないことにする。

## 3.2 動詞受身形の文中における出現位置

次に、動詞受身形の文中における出現位置を観察する。出現位置については、基本的には前田（2011）の「単文末」「複文末」「引用節末」「疑問節末」「連体節末」「連用節末」の6分類を使用する。

- (9) 叱られた。(単文末)
- (10) 宿題を忘れて、叱られた。(複文末)
- (11) 「叱られた」と言っていた。(引用節末)
- (12) 叱られたかどうか、分からない。(疑問節末)
- (13) 叱られた太郎 (連体節末)
- (14) 叱られて、落ち込んだ。(連用節末)

ただし、単文末と複文末はいずれも文末であるので、本稿では「(単複)文末」としてまとめて扱うことにする。また、引用節末と疑問節末はいずれも広義の引用であると見なすことができるので、「引用・疑問節末」としてまとめて扱う。

以上を踏まえて、話し言葉と書き言葉ではそれぞれ動詞受身形が文中のどの位置に出現するのかをカウントしたところ、表2のようになった。

表2 動詞受身形の文中における出現位置

	話し言葉	書き言葉
①(単複)文末	347 (34.9%)	1461 (32.3%)
②引用・疑問節末	37 (3.7%)	121 (2.7%)
③連体節末	141 (14.2%)	<b>1694 (37.4%)</b>
④連用節末	<b>469 (47.2%)</b>	1254 (27.7%)
計	994	4530

表2から、動詞受身形は話し言葉では連用節末に、書き言葉では連体節末に出現しやすいということが分かる。

なお、話し言葉で連用節末に出現している動詞受身形469例のうち、最も多

いのは「て形」接続 (V-(ら)れて、～) の181例であった。この事実は、前田 (2011: 76) が「圧倒的に「て」節に受動表現が現れる場合が多い」と指摘していることと一致する。

(15) 由佳ちゃんに言われてあっ確かにあったら楽だなって思って。

(会話ID K003\_006)

それから、「て形」接続以外では、動詞受身形が「から」節 (52例) や「たら」節 (46例) などに出現している例が多かった。

(16) ペットボトルに水入れて氷にしてもう朝市ではどンドンそれで売って  
いきたいからってゆってあのいらなくなったら持ってきてってゆわれ  
てるからいつもそこに届けてる。

(会話ID C001\_007)

(17) そのきっくんのおニューの本を食べちゃ駄目です。それかじられたら  
売れなくなっちゃうよ。

(会話ID T011\_015)

また、受影型と降格型に分けてカウントすると、表3のようになった。

表3 動詞受身形の文中における出現位置 (受影型・降格型別)

	話し言葉		書き言葉	
	受影型	降格型	受影型	降格型
①	234 (33.9%)	<b>56 (38.1%)</b>	451 (27.7%)	989 (35.0%)
②	31 (3.7%)	6 (4.1%)	51 (3.1%)	65 (2.3%)
③	107 (12.8%)	33 (22.4%)	492 (30.2%)	<b>1163 (41.1%)</b>
④	<b>415 (49.6%)</b>	52 (35.4%)	<b>635 (39.0%)</b>	610 (21.6%)
計	837	147	1629	2827

表3から、受影型は連用節末に、降格型は連体節末と文末に出現しやすいということが見てとれる。

まず、受影型が連用節末に出現している例は以下の通りである。

(18) 隣で吸われても別に気にならないからいいんだけどね。

(連用節末；会話ID T005\_008)

(19) 「これまでにない役柄。監督から「今回は普通の男を演じてください」といわれたんですが、いったい何が普通なのかよく分かんなくて…」と笑う石橋。  
(連用節末；『産経新聞』2001年2月5日夕刊)

そして、降格型が文末や連体節末に出現している例は以下の通りである。

(20) カレーの粉がまぶされてる。  
(文末；会話ID T002\_018)

(21) 今後提供される「高速サービス」についても、とにかく料金値下げへの要望が集中している。(連体節末；『ASAHIパソコン』2001年1月1・15日合併増大号)

なお、降格型は連体節末に出現しやすいという点は、杉村 (2019: 76) の「降格受動文で最も顕著な用途は「…」連体修飾語です」という指摘とも一致する。

### 3.3 受身形と結びつきやすい動詞

最後に、受身形はどのような動詞と結びつきやすいのかを観察する。表4は、話し言葉と書き言葉で受身形と結びつきやすい動詞の上位10語である。

表4 受身形と結びつきやすい動詞

話し言葉 (計994例)				書き言葉 (計4530例)			
①言う	363	⑥打つ	16	①言う	192	⑥使う	66
②取る	29	怒る		②行う	168	⑦知る	62
③する <sup>[注4]</sup>	25	⑧差す	14	③する	165	⑧作る	48
④聞く	22	⑨呼ぶ	11	④呼ぶ	111	⑨含む	37
⑤やる	18	⑩思 使う	9	⑤聞く	103	⑩逮捕+する	36

表4から、まずは、話し言葉でも書き言葉でも「言う」は最も受身形で使用されやすい動詞であるということが分かる。特に話し言葉では「言う」が36.5% (363/994) を占めている。そこで、話し言葉と書き言葉における「言う」(言



われる)の例を1つずつ挙げておく。

- (22) ちょっと絞ってから食べてってゆわれたよ。 (会話ID T005\_002)  
(23) 当初、五色台の山に自生していた松を掘り上げて鉢上げしたのが松盆栽の発祥と言われている。 (藤村敬子『農耕と園藝』)

また、話し言葉では受影型でしか使用できない動詞が、書き言葉では基本的に降格型で使用する動詞が上位10語以内に入っていることに気がつく。

話し言葉の上位10語のうち「④聞く」「⑤やる」「⑥打つ」「⑥怒る」は受影型でしか使用できない動詞である。降格型では非文になってしまう。

- (24) \*大事な話がスパイによって聞かれてしまった。

一方、書き言葉の上位10語のうち「②行う」「⑤開く」「⑧作る」は基本的に降格型で使用する動詞であり、受影型で使用するの難しい。

- (25) \*文化祭が実行委員会に行われた。

ただし、これらの動詞でも間接受身としてならば受影型で使うことが可能である。「降格型でしか使用できない動詞」ではなく「基本的に降格型で使用する動詞」としたのはそのためである。

- (26) こんな時期に文化祭を行われては困る。

## 4 データの意義

第4節では、ここまでで提示したデータの意義について考察する。

### 4.1 日本語学研究への貢献

まず、ここまでで提示したデータは日本語学研究に対してどのように貢献す

ることができるのか。

ここでは、得られたデータと「視点」という概念を組み合わせることで、受身文（動詞受身形）と他の文法項目に見られる現象について共通点を見出すことができるということを主張したい。なお、「他の文法項目」の例として、ここでは感情（感覚）形容詞文を取り上げる。

古賀（2018）によると、動詞受身形のうち受影型は「話し手が当該の事象を被動作主の立場から見ている」ことを示し（p.122）、降格型は「話し手が当該の事象から距離を置いてその事象の全体を見ている」ことを示す（p.142）。これを図示すると、日本語の動詞受身形は次の図1のような話し手の視点の在り方を示すということになる<sup>[註5]</sup>。



図1 受影型（左）と降格型の視点（右）（古賀2018: 123, 142（一部改））

つまり、話し手は受影型では内の視点、降格型では外の視点で当該の事象を見ているということになる。そして、このことと、話し言葉では受影型が84.2%、書き言葉では降格型が62.4%を占めている（3.1節）ということを考え合わせると、日本語の話し言葉は内の視点が基本で、書き言葉は外の視点が基本であるということになる。

さて、よく知られているように、日本語の話し言葉では他者の感情（感覚）について述語の断定形で直接的に言及することはできない。感情（感覚）形容詞文の人称制限である（例27）。しかし、小説の地の文など書き言葉においては述語の断定形が可能になる（例28）。

(27) \*メロスは辛かったよ。 (話し言葉)

(28) 若いメロスは、辛かった。 (書き言葉；太宰治『走れメロス』)

では、なぜ書き言葉では他者の感情（感覚）について述語の断定形で言及することができるのか。その理由としてよく挙げられるのは、小説の地の文などにおいては話し手（書き手）の視点が話し手（書き手）自身を離れて、高い位置から俯瞰するようにして事象を見ているため、他者の感情（感覚）も直接的に観察できてしまうからというものである。一方、話し言葉においては視点が話し手（書き手）自身から離れることがないため、他者の感情（感覚）を直接的に観察することはできない<sup>[注6]</sup>。

つまり、感情（感覚）形容詞文についても、話し言葉は内の視点、書き言葉は外の視点が基本であるということになる。そして、ここに受身文（動詞受身形）と感情（感覚）形容詞文という一見すると関連性があるようには思えない2つの文法項目の共通点を見い出すことができる。

## 4.2 日本語教育の現場への提言

次に、ここまでで提示したデータに基づいて、日本語教育の現場に対してどのようなことを提言できるのかを考える。

第一に、受影受動文（受影型）と降格受動文（降格型）を同じ課で扱うのは、本来ならば無理があるということが言えるだろう。

すでにデータを示したように、「受影型は話し言葉において84.2%、降格型は書き言葉において62.4%を占める」（3.1節）、「受影型は連用節末に、降格型は連体節末と文末に出現しやすい」（3.2節）など、受影型と降格型では日本語話者の使用実態が明らかに異なる。にもかかわらず、たとえば『みんなの日本語』では第37課で受影受動文（受影型）と降格受動文（降格型）が同時に扱われている。これは学習者にとって負担が大きいと思われる。

(29) 子どものとき、よく母にしかられました。 (受影受動文)

(30) 法隆寺は607年に建てられました。 (降格受動文)

(例29-30は『みんなの日本語』第37課「文型」)

「初級・中級日本語」という科目の枠組みの中で受身文を導入するのであれば、まずはやはり初級の段階で受影受動文（受影型）を導入し、降格受動文（降

格型)についてはその次の課、或いは中級以降に導入するということが考えられる。ただし、教科書はすでに印刷済みであり、短い時間で改訂できるものではない。教師としては、まずは現有の教科書を使用しつつ、学習者が受影受動文(受影型)と降格受動文(降格型)のタイプの違いをできるだけ意識できるように工夫するしかないだろう。

また、「聞く」「話す」「読む」「書く」のすべての授業(初級・中級日本語は「読む」にあたる)を視野に入れるなら、受影受動文(受影型)は主に「初級日本語」と「会話」の授業で指導し、降格受動文(降格型)は「初級・中級日本語」と「作文」の授業で指導するということも考えられるかもしれない。

第二に、これは前田(2011)も提案していることであるが、受影型は連用節末に出現しやすいという使用実態を踏まえて、受影型については「文末」に出現する例を中心としつつ、「連用節末」に出現する例も積極的に扱ってよいと思われる。

しかし、『みんなの日本語』第37課で扱われている例文を観察すると、受影型はすべて「文末」の例である。降格型については「連用節末」の例が1例のみ出現するが(例31)、受影型については「連用節末」の例がまったく取り上げられていない。

- (31) (金閣寺は) 1950年に一度焼けてしまいましたが、その後新しい建物が  
建てられて、1994年に世界遺産になりました。

(『みんなの日本語』第37課「会話」)

「連用節末」の例が教科書で取り上げられていない以上、授業の時間に教師が例文や練習を補足するしかないだろう。

すでに述べたように、動詞受身形が連用節に出現する例の中でも、「て形」接続の例(V-(ら)れて、～)は特に多い。さらに、『みんなの日本語』では「のだ」文が第26課で導入済みであるということも考え合わせると、たとえば次のような練習を補足することができるかもしれない。

- (32) A : どうしたんですか。

B : \_\_\_\_\_ (ら) れて、 \_\_\_\_\_ んです。

教科書に書いていないから扱わないというのではなく、日本語話者の使用実態をできるだけ反映した内容を授業で扱うように工夫するのが望ましい。

第三に、授業で例文を提示する際に、特に使用する動詞を意識的に選択するということである。

ただし、教科書で取り上げられている例文はおおむね日本語話者の使用実態を反映していると考えてよさそうである。表5は『みんなの日本語』第37課の「文型・例文」「会話」「練習A」に出現する受身文の例文の述語部分のみを抽出したものである。

表5 『みんなの日本語』第37課に出現する例文の述語

受影 受動文	②取られました、⑥呼ばれました、しかられました、踏まれました、注意されました、まちがえられたんです、褒められました、頼まれました、捨てられました、壊されます
降格 受動文	②行われます、⑤開かれます(か)、⑥使われています(か)、建てられました、発見されましたよ、造られます

(33) けさ部長に呼ばれました。 (受影受動文)

(34) ことしの世界子ども会議はどこで開かれますか。 (降格受動文)

(例33-34は『みんなの日本語』第37課「例文」)

受影受動文の「取る」「呼ぶ」、そして降格受動文の「行う」「開く」「使う」はいずれも受身形と結びつきやすい動詞(3.3節)の上位10語に入っている動詞である。これらの動詞を使用した受身文の例が取り上げられているというのは、日本語話者の使用実態をたしかに反映していると言うことができる。

これと同じように、授業で例文を補足する場合も、教師がたまたま思いついた例文を提示するのではなく、動詞をできるだけ意識的に選択することができるだろう。

たとえば、「言われる」の例はぜひとも導入したいものである。

(35) わたしは友だちに「がんばってね」と言われました。 (作例)

すでに示したように、「言う」は受身形と最も結びつきやすい動詞である。それに加えて、筆者の観察では、学習者は他者から自分自身への発言について、恩恵的な発言内容ではない場合でも「言ってくれる」を選択してしまう傾向があるようである。

- (36) #友だちはわたしに「あなたにこの仕事は無理だ」と言ってくれました。  
(学習者の使用傾向に基づく作例)

「言われる」は（他者の自分自身に対する）発言内容が非恩恵的な場合、中立的な場合、恩恵的な場合のすべてにおいて使用できるが、「言ってくれる」は恩恵的な場合にしか使用できない。使用実態とともにこのことも考え合わせると、「言われる」はできる限り導入しておくほうがよいだろう。

## 5 おわりに

本稿では、2種類のコーパスを使用して、話し言葉と書き言葉における受身文（動詞受身形）の使用実態の異同を明らかにすることを試みた。その結果、主に以下の点が明らかになった。

- ①話し言葉では受影型動詞受身形が、書き言葉では降格型動詞受身形が最も多く出現する。
- ②動詞受身形は話し言葉では連用節末に、書き言葉では連体節末に多く出現する。
- ③話し言葉でも書き言葉でも「言う」が最も受身形で出現する。そして、話し言葉では受影型でしか使用されない動詞が、書き言葉では基本的に降格型で使用される動詞が受身形で上位に出現する。

また、これらのデータが日本語学研究や日本語教育に対してどのような意義を有するののかについても考察した。

本稿では「話し言葉と書き言葉の異同」という課題に取り組んだが、たとえ

ば小説の会話部分（BCCWJの「出版・書籍」に含まれるので本稿では書き言葉の一部として扱った）のような「話し言葉寄りの書き言葉」もある。したがって、話し言葉と書き言葉のこのような連続性も考慮に入れつつ話し言葉と書き言葉の特徴の異同をより詳細に明らかにしていくことが今後の課題の1つになるだろう。

〈台湾・静宜大学〉

## 注

- [注1] …… BCCWJをはじめ書き言葉のコーパスが非常に発達しているのに比べると、CEJCなど話し言葉のコーパスは十分に発達しているとは言い難く、この発達度の差はやや気になるところである。それでも、CEJCが現段階で使用することができる最良の話し言葉コーパスの1つであることは間違いのないことなので、本稿ではこれを話し言葉の代表として扱い、書き言葉との異同の観察に使用したいと思う。
- [注2] …… コアデータとは、機械で自動的に形態素解析をした後に人の手によって確認・修正が加えられているデータのことである。そのため、機械による形態素解析のみの非コアデータよりも精度がさらに高い。
- [注3] …… 「降格受動文」は益岡（2019）では「中立受動文」に用語が変更されているが、本稿では最も早い段階での用語である「降格受動文」を使用する。
- [注4] …… 「する」には「{管理/搾取/逮捕……} + する」も含まれるため、目視にて「する」と「X+する」をカウントしなおした。その際、「何かをされる」「保護はされる」「発言をされる」のような場合は「する」、そして「保護される」のような場合は「X+する」としてカウントした。なお、話し言葉で出現回数が最も多かった「X+する」は「管理する」（6回、23位）であった。
- [注5] …… 受影響動詞受身形の視点制約については、久野（1978）も参照のこと。
- [注6] …… 視点が話し手を離れる、離れないという考え方については、甘露（2004、2005）を参照のこと。

## 参考文献

- 甘露統子（2004）「人称制限と視点」『言葉と文化』5, pp.87-104. 名古屋大学大学院国際言語文化研究科日本語文化専攻
- 甘露統子（2005）「語り」の構造」『言葉と文化』6, pp.103-120. 名古屋大学大学院国際言語文化研究科日本語文化専攻
- 久野暲（1978）『談話の文法』大修館書店
- 古賀悠太郎（2018）『現代日本語の視点の研究—体系化と精緻化』ひつじ書房
- 志波彩子（2015）『現代日本語の受身構文タイプとテキストジャンル』和泉書院

- 杉村博文（2019）「中国語の受動概念—中日受動文翻訳のための基礎研究」『中文日訳の基礎的研究（一）』pp.67-91. 日中言語文化出版社
- 前田直子（2011）「受動表現の指導と「拡大文型」の試み」『日本語／日本語教育研究』2, pp.67-84.
- 益岡隆志（1982）「日本語受動文の意味分析」『言語研究』82, pp.48-64.
- 益岡隆志（2000）『日本語文法の諸相』くろしお出版
- 益岡隆志（2019）「主観性から見た日本語受動文の特質」澤田治美・仁田義雄・山梨正明（編）『場面と主体性・主観性』pp.339-357. ひつじ書房